



2018 Code of Points

Questions and Answers: March 2018

質疑応答:2018 年 3 月、6 月、10 月、2019 年 6 月

Generalities

総則

1. 選手が 1 本のクラブを演技面外に落下した。選手は予備手具の 1 本のクラブを使用し、選手がもともと使用していたクラブを置いて 2 本目のクラブを使用した (同じペアのクラブを使用したことになる)。減点は何点か？

0.30 + 0.30 (2 本は別々に 2 回であり、取り戻しに時差があるため)

2. この場合、減点は何点か？：クラブの団体演技において、2 名の選手がそれぞれ 1 本ずつ、同じまたは異なるラインを超えて演技面外に落下した。

0.30 + 0.30

3. 1 名の選手が 2 本のクラブを同時に落下し、それぞれのクラブは異なるラインを超えてフロア外に出た：誰が減点を与えるか？

1 度のみ -0.30 (8 ページ、#3.2)、そして上級審判団はどちらの線審が減点するか確認すること。

4. 選手はレオタードに加えて“くつ下”または装飾したレッグウォーマーを着用することは可能か？

いいえ、なぜならレオタードは 1 つつなぎになっていなければならないから。

5. 個人演技にて：BD グループを実施していたとしても最も高いものから 9 個にカウントされなかった場合、減点はあるか？

“身体グループの欠如”の減点はない、（例：ローテーション）演技中のピボットが最も高いものから 9 個にカウントされなかったとしても、演技中にピボットを実施していれば良い。

6. フープの演技中、フープが場外し選手が予備手具を使用して演技を続行した。選手がまたフープを落下しそのフープが場外へでた。選手はそのフープを取り戻すことなく、2つ目の予備手具を使用する替わりに1回目に場外した自分のフープを使用した。この場合の線審とコーディネータージャッジからの減点はどうになるか？
- 1回目の喪失：手具がラインを超えた-0.30（線審）；2回目の喪失：手具がラインを超えた-0.30（線審）、選手がラインを超えた-0.30（線審）、そして許可されない予備手具の使用-0.50（コーディネータージャッジ）。
7. 個人選手が怪我または何らかの理由で演技続行ができない場合、審判員はどのようにすれば良いか？
- DとEの各サブグループにて選手が演技を止める時点までの演技に対して、全ての関連する減点も含めて得点を与える。
8. 手具が落下し場外に出たので、選手は予備手具を使用したけど、その手具が戻ってきて演技面内に留まってしまった場合、戻ってきてしまった手具自体への減点はあるか？
- 手具がラインを超えた-0.30（線審）と許可されない予備手具の使用（手具が演技面に残る）-0.50（コーディネータージャッジ）。
9. 2019-2020 のジュニアプログラムの手具は何か？
- 採点規則 81 ページを参照すること！個人：ロープ、ボール、クラブ、リボン；団体：第1演技：フープ5；第2演技：リボン5

D1-D2

1. 審判はどのように 10° の誤差(0.10)と 11° の誤差(0.30)の間の違いを判断すれば良いか？
- 角度についてはあくまでもガイドラインである。審判は小さい、中くらいそして大きい減点の見極めを習得しなければならない。

2. BD 中のリングの位置：足を接触するのは頭のどの部分でも良いか？

はい。

3. リングを伴った開脚リープで、開脚に小さな誤差、とリング位置にて小さな誤差があった場合、技術的減点は何点か？

技術的欠点：-0.10(開脚における小さな誤差に対して)と-0.10(リングにおける小さな誤差に対して)15 ページ#2.3.1 参照、BD は有効とし、“各不正確な身体位置”の技術的实施減点を伴う。

4. リングを伴った開脚リープ：リング位置にて中くらいの誤差(0.30)と、開脚の前脚にて中くらいの誤差(0.30)があった場合。0.60 の減点か？

はい、技術的欠点は 0.30+0.30；BD は中くらいの誤差があっても、有効である。

5. 追加の不正確な身体位置(開脚またはリング、など)、選手がシーソーの動きを伴ってリープを実施した場合、実施技術審判は誤差を伴った不正確な形とシーソーの動きを減点するか？

はい、審判は“誤差(小さい、中くらい、大きい)を伴った不正確な形”(各身体位置は#2.3.1 に準ずる)と“シーソーの動き(小さい、中くらい、大きい)伴った形”の双方を減点する。

6. これらのジャンプの実施に対して D の価値と技術的欠点は何点か：

D: 0.30 技術的欠点：-0.50	D: 0.50 技術的欠点：-0.30	D: 0.50 技術的欠点：-0.10
		

7. 上記の例に加えて：選手が演技後半に — を実施した場合、このジャンプは有効か？

いいえ、これは1番目のリープの繰り返しとなるため無効であり最も高いものから9個に含めることはできない。

8. 選手がリープで“不正確な着地：着地の最後において後ろに傾く”を実施、このため前脚の着地が重かった場合、実施技術審判は 0.30(後ろに傾いたままの着地)+0.10(重い着地)を減点するか？

“不正確な着地：着地の最後において後ろに傾く”を伴ったジャンプの多くは前脚の重い着地も伴っている；従って、着地の減点としては各ジャンプに 1 つの減点のみ与えるのが良い；着地の最後において後ろに傾く場合-0.30；重い着地(着地の最後において後ろに傾いていない場合)-0.10 である。

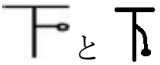
9. #20 ジャンプ難度について。開脚リープ、またはリングまたは胴の後屈を伴った、または踏切と着地が同じ脚(Zaripova)について。“Zaripova”では“開脚”と“リング”が見えなければならないか？

はい、これら両方の基準が必要である。

10. バランス難度を小さいまたは中くらいの誤差を伴って実施した場合でも、“明確な”形としてバランスは有効か？

はい、#2.3.1 を参照。小さいまたは中くらいの誤差を伴った形でも、形が見えるものであれば技術的欠点（複数）を伴ったとしても有効である。

11. バランス難度：選手が静止位置を見せなくともバランス難度は有効か？#9.1.2：“形が明確で手具要素を正確に実施したが（例：支持なしでの横開脚で形を見せている間にボールの突きを伴う）静止位置が不十分な場合、バランスは有効となるが技術的实施減点を伴う（-0.30”最低 1 秒間の静止がない形“54 ページ）。

12. バランス： の位置がこれら 2 つの形の間である場合、これを形の誤差と判断するのか？

いいえ：#8 のバランスは胴を“水平面またはそれ以下”；従って、水平面またはそれ以下のどの位置であっても形の誤差を伴うことなく有効である。

13. #23 のバランスでは、最初の形で静止位置は必要か？

いいえ、これはダイナミックバランスであり、バランスのどの場面でも静止位置は必要でない(#9.1.2、C)。

14. ダイナミックバランスで静止位置を伴って実施した場合、何か減点があるか？
減点なし。

15. 選手が静止位置を伴い正しい手具操作でバランスを実施した後に、片手で支えてしまった場合、BD は有効か？

いいえ：バランス位置のどの場面であってもバランスを失って支えた場合は無効である(#2.2.3 参照)

16. #10.1.2 について：“ローテーションは、実施された回転数にて評価される。中断(ホップ)があった場合、中断の前までに実施された回転の価値のみが有効となる。”移動を伴わないホップ(複数)と移動を伴うホップ(複数)の後のローテーション(複数)は有効か？

-0.1 移動を伴わないホップ(複数)：はい、有効である；-0.3 移動を伴うホップ(複数)：無効である。

17. ピボットの回転中、選手がルールで実施しているときに回転中の一部にて踵の支持を伴った場合、難度は有効か？

10.1.2 には、ローテーションは実施された回転数によって評価されるとある。基本回転に満たないローテーションが中断を伴い実施された場合、難度は無効である。最初の基本回転後のあとに実施された回転中に中断があった場合、中断の前までに実施された回転の価値のみ有効である。

18. ローテーション難度中、最低基本回転終了前までに、形に達していること(#10.1.7)：この意味は基本回転終了までに形が見えれば形に誤差を伴う基本回転にも有効か？



はい、基本回転終了までに形が見えれば良い。しかしながら、このローテーションの場合、形は最終位置にて1度形が確認できれば良い。

注意：形の誤差は回転の準備段階とは異なるものである。



19. において腕が脚と接触する必要があるか？

いいえ、腕が接触する必要はない。開脚と胴の後屈が水平面以下であることが必要である。

20. リングを伴ったパンシェピボット中、最初の回転でリング位置に小さな誤差があり、2回転目で誤差はなく、3回転目でリング位置にて中くらいの誤差があった：技術的欠点は何点か？

中くらいの誤差-0.30、1つのBD中における同じ身体位置に対しては1回のみ減点。

21. 支持を伴うリングピボット中にボールが背中にある場合、脚のどの部分でも頭に接触していれば良いか？

はい；BDとして頭と脚の間に接触が要求される。脚は頭のどこかの部分と接触していれば良く、髪型(“束ねた髪”)でも良い。

- 22.22 ページ注意：“たとえ1つの手具要素に2動作があったとしても、1つのBDのみ有効にできる。”これは正しいか？：ボールの同じ突き(突きと突きの後の受け)を2つ続いたバランスで使うことはできない一例、1つ目のバランスで突き、そして2つ目のバランスで受ける。

正しい。

23. リボンに小さな結び目ができた場合、BDは有効か？

無効。なぜならこの技術的欠点は-0.30である(BD #2.2.3、ダンスステップ #4.4、AD #6.2.3 参照)

24. ダンスステップ：5.4.1にあるプレアクロバット要素とイリュージョンのみがダンスステップでは許可されない要素か(記載されていない他の回転要素はダンスステップ中に許可されるか？)

#5.4.1と#5.4.2にあるものはダンスステップ中に許可されず、プレアクロバット要素にあるものも実施することは許可されない。

25. ダンスステップコンビネーション(S)中、選手は動きの様式を2回変えたが、高さ、リズム、または方向の変化がなかった。このダンスステップコンビネーションは有効か？

いいえ、なぜなら1つの多様性が欠けているためである(4.1.3)。

26. 選手がダンスステップコンビネーションを実施し、8秒間中すべての必須要素が入っていた；この後、ダンスステップを続けたが手具を落下した。ステップは有効か？

はい、最初にすべての必須要素が入っていたので有効である。

27. 選手がジュッテジャンプ中に脚の下でボールを右手で突いて左手で受け、その後バランス中に身体の前方で突き実施した。これは異なるものとみなすか？

はい、異なる。

28. フェットバランスの一部でホップがあった場合、バランスは有効か？技術的欠点は何点か？

有効：採点規則 14 ページ#2.2.3 参照：#2.2.3の事項のみがBDが無効となる場合である；54ページの技術的欠点、基礎技術：“バランスを失う：移動なしで余分な動きを入れる”(-0.10)または“バランスを失う：移動して余分な動きを入れる”(-0.30)。これらの身体技術欠点は手具技術欠点ではないので、BDはそのまま有効である。

29. フェットバランス中、1つのバランスが回転を伴ったものであった：これは有効か？

いいえ

30. BD 中に選手がボールを“不安定な位置”となるよう前腕にてにぎった場合、これは有効か？

有効：採点規則 14 ページ#2.2.3 参照：#2.2.3 の事項のみが BD が無効となる場合である；ボールを“前腕でにぎる”は手具操作における-0.10 の技術的欠点である（56 ページ）ので有効となる（手具の技術的欠点が-0.30 またはそれ以上になる場合 BD は無効）。

31. ローテーション BD において 360° の基本回転を正確な手具操作と有効な形で実施した後に軸を失った場合、それでもこの BD は-0.30 の技術的欠点を伴って有効か？

はい、基本回転を手具操作が伴って正確に実施したのであれば、軸を失うことへの技術的欠点となる。もし基本回転終了前に軸を失った場合は基礎的特徴の喪失として無効となる。

32. リボンの結び目を伴って身体難度またはダンスステップコンビネーションを実施した場合は有効か？このような場合は結び目を取るべきか？

リボンの結び目を伴った BD または S は、手具の技術的欠点が 0.30 またはそれ以上（15 ページ#2.2.3 参照）となるので無効である。D が有効になるには、結び目をほどくまたは予備手具を使用する必要がある。

33. 正確な形と手具操作を伴ってバランスを実施したが、1秒間の静止がなかった（“21”ではない）場合このバランスは有効か？

-0.30 の技術的欠点を伴って有効（#9.1.2）。

34. バランス難度中に選手は支持脚を手または腕で支えても良いか(例：パンシェ、側方へ身体を倒すもの)？

選手は支持脚に触れても良いが、バランスを保持するために支持脚を支えてはならない。

注意：

- ❖ 2BD を利き手でない手にて実施するというものはジュニアルール！
- ❖ 2つの異なる BD での同じ手具操作の繰り返し
- ❖ 無効な操作(例:床でのフープの打ち)
- ❖ 8秒間が完全にないステップはダンスステップではない(最後の数秒が次の D 要素の準備となっているもの)

D3-D4

1. 選手がフープを意図的に手首または前腕で受けた場合、たとえ“手以外”は有効でないとしても、“回しながらダイレクトに受ける”は有効か？

はい。回しながらダイレクトに受ける(意図的な腕での受け)であるが、“手の補助なし”の 0.10 の加点はない。他の部位(肘など)での受けは“手の補助なし”となる。審判は振付の一部（次の動きにスムーズなつながりがある）として認識した場合、不正確な受けとしての技術的欠点は与えない。

2. シェネまたは側転または転回において手具を受ける場合、“不正確な軌道”の減点が適用される不正確な終末のステップとして何歩許可されるか？

シェネから：選手はターン位置から脚を開かなければならないーこれは許容ステップといえる。選手がシェネまたはプレアクロバット要素にて許容ステップを超えて実施した場合、容認できるが、その動きが手具の落下を防ぐために実施された場合は、これは不正確な軌道となる。

3. 選手が AD 中、手具が空中にある最中に振付されたステップまたは構成された身体の動きを行った場合、不正確な軌道による減点は与えない。これは正しいか？

正しい。

4. 選手が R の最終回転にて手具を受けた 例：イリュージョンまたは側転または前転、しかしこれが視野外での受けでなかった場合、R の回転として、とその他の基準、軸の変更や投げ返し(“回しながらダイレクトに受ける”が不可能であっても)は有効か？

はい。

5. 水平面を伴う手具の投げでの AD：“選手の身長 of 2 倍を超える”高さが必要か？

大きな投げの AD 0.3 に対してのみである。

6. 選手が受けの最中にロープの片端を失い、演技を中断した場合、R はカウントされるか？

はい(R の定義に従って)。

7. R でのリボンの受けの最中、スティックでなくリボンの一部を受けた場合、R はカウントされるか？

はい(R の定義に従って)。

8. 選手が R の基本必須条件を実施したが、手具の受けにて転倒した場合、R は有効か？

はい(R の定義に従って)。

9. 選手がリボンで小さな結び目ができた場合、結び目があっても R は有効か？

有効である(#5.1.2 と #5.1.4 参照)

10. AD の手具の投げの高さについて：選手が完全に伸ばした状態でリボンを外側（上ではなく）へ投げた場合、これは中くらいの投げか？

はい。

11. 基礎ではない転がし要素、例えばクラブ／リボンの転がしは、6.3.2 による最低でも身体上の大きな 2 部位を転がした場合に AD として 0.30 として有効となる、正しいか？

はい、0.30 の価値である。

a. 1 本または 2 本のクラブの最低でも身体上の大きな 2 部位の転がし

b. リボンのスティックの最低でも身体上の大きな 2 部位の転がし

注意： ・ 1 本または 2 本のクラブの身体の部位上または床上の転がしは AD 0.20 として有効である。

・ リボンのスティックの身体の部位上の転がしは AD 0.20 として有効である。

12. AD 要素に 2 つのベースがあった場合、審判はどのように価値を与えれば良いか？

正しく実施された最も高いベースの価値である。

13. 正しく実施された場合、2 つの AD(投げの AD と、この AD の受け)の価値を得られるか？

はい、異なるベースであることと異なる基準であること。

14. 小さなリボンの結び目があった場合 AD は有効か？

手具の技術的欠点が-0.30（27 ページ#6.2.3）なので、小さなリボンの結び目を伴った AD は無効である。手具操作の基礎的特徴の大きな変更（-0.30 またはそれ以上の技術的欠点）。D が有効になるには、結び目をほどくまたは予備手具を使用する必要がある。

15. 選手がパンシェバランスにおいて、足先でのフープの回し（手以外、視野外）、その後フープの小さな投げを手以外と視野外にて実施した。これらの AD は 1 つまたは 2 つ？

これは 1 つの AD となる：1 つの“手具と身体の間”に同調性を保つには難しいものの”。

16. AD：ベースと基準が正確に実施されれば AD は有効か？

AD は定義の一部ではなく、完全に則ってなければならない (#6.1)

17. AD において“興味深い”または“革新的な”要素ではあるが、2 つの基準（または 2 つのベースに 1 つの基準）がない場合、このような要素は定義におおよそ従っているので有効となるか？

いいえ、AD が有効となるには定義に完全に従ってなければならない (#6.1)

18. 選手がボールで大きな転がしをしようとしたが 2 つの大きな身体部位を通過しなかった場合、これは技術的欠点となるかまたは AD が無効となるか？

両方：AD は無効、なぜならベースの定義（身体上の大きな 2 部位での転がし）に従ってない；欠点の度合いによるが -0.10 の技術的欠点がある（不完全な転がしまたはバウンドを伴う転がし）。

19. “転がし”と“滑らし”の違いを説明して下さい。：

転がし：軸周りでの回転運動；滑らし：上から下へ落ちてくる動作

20. 明確に説明をして下さい：片手での側転と両手での側転は同じ(例、繰り返し)か、または異なるか

同じである（繰り返し）

#5.4.2 異なるものの一覧

転回と側転は異なるものである：

- ・前方または後方または側方
- ・前腕で、胸支持でまたは背面支持で
- ・両足の切り替えを伴うものと伴わないもの
- ・開始時と着地時の位置：床上または立位で

21. ブーメランの定義  “ブーメラン”：リボン在空中または床上へ放す（リボンの端を保持）と受け：リボンを引き戻す（放す動作がなく）のみの要素は、ブーメランの定義に沿っていない。またリボンの端は手の中に残さなければならず、空中に放す時に手から離れてはいけない。

22. ADの明確な説明

- ・ 中くらいの投げ ↗ = 1つの AD として可能 (0.20)
- ・ 中くらいの投げからの受け ↓ = 1つの AD として可能 (0.20)
- ・ 小さな投げ/受け → = 1つの AD として可能 (小さな投げと受けで1つの技術グループであるため、2つの AD にはならない)

2つの異なる
技術グループ (#3.4)

23. ローテーションを伴う身体難度中、AD を有効とするための 2 つの基準として“BD”と“回転”は可能か？

いいえ：採点規則の定義では1つの要素（または、場合によれば、1つの動作）には2回の価値を割り当てることはできない。従って2つの基準は同じ1つの要素に存在しない。；2つ目のベースまたは追加の基準が必要となる。

24. 1つのフェットバランスで BD の基準を使い 2 つの異なる AD を実施することは可能か？

いいえ；上記を参照のこと；同じ BD で2つの異なる AD は無効。

25. リボン演技中に、選手が回転中の受けとしての AD と、すぐにこの回転中にらせんを実施した。“受け”の AD と“らせん”をベースにした AD を与えることは可能か？

いいえ；上記を参照のこと；同じ要素（この場合は回転）で2つの異なる AD は無効。

26. 自由なリボン（保持なしで）で身体の周りで図形を描いたリボンの AD の場合、リボンのスティックを挟んだポジションで実施することは可能か？（ベース：操作）

いいえ。AD の定義に従っていないため無効

27. 腕から腕へのフープの大きな転がしを、視野外にてバランス BD 中に実施した、これは AD となるか？この要素は1つのベースと2つの基準として有効か（BD と視野外）？

基本的なベースと正確に実施した基準を伴う手具操作のすべてが手具難度として有効になるわけではない。AD は定義に完全に従っていない(#6.1)。TC はこの種類の転がしはフープの基礎技術要素の一部であり、ローテーション難度中よりも安定しているバランス中は、手具と身体の間と同調性を保つのは難しい技術や革新的な AD にはならないと考えている。しかし、TC は BD 中のボールの大きな転がしは、より技術的に難しいと考えており、定義に従って実施した時は AD として認めると考えている。

28. リボンのブーメランをベースにした AD において、どの場面で回転の基準を実施することができるか？

回転はリボンを放す、または引き戻しの後スティックを受けるときに実施しなければならない、リボンが空中にある間に実施することはできない。

29. ブーメランでリボンを放し、投げの準備として足に引き戻した場合、ブーメランはベースとして有効か？

いいえ なぜならブーメランは放しと手または身体の一部によるスティックの引き戻し(受け)の双方が必要である；受けがない場合は、次の投げの準備動作のみである。

30. 投げまたはエシャッペ中に手でリボンの端を保持することができるか、そしてそれは AD のベースとして有効か？

a) 各投げの種類において（小さい、中くらい、大きい）、手具は空中にて自由であること；従って AD のベースとしてそれぞれの投げの最中にリボンの端を保持することはできない。

b) エシャッペは空中でスティックが回転すること、小さいまたは中くらいの高さ；エシャッペをリボンの端を保持しながら実施した場合、エシャッペと AD の定義の両方に従っているため、AD は有効である。

c) リボンの端を保持しての“手具操作”要素（3.4）は、ベースと AD の定義に従っている。

注意： 手具ベースが定義に従って実施されていない(BD と AD に対して)

❖ 1.5 R の基本回転

AD: 基本の投げ(小さい、中くらい、大きい)	
AD+1歩またはそれ以上*+受け	無効:技術的欠点-0.30 またはそれ以上(*ははっきりとした不正確な軌道:ステップは手具の落下を防ぐため)
AD+手具の喪失	無効:技術的欠点-0.50 またはそれ以上(喪失)
AD: 基本の受け	
1歩またはそれ以上+AD	有効

実施芸術的欠点

1. 選手が演技全体において身体の部位の使用が不十分であったが、部分的または全身での波動(身体の部位の使用はこれのみ)があったとき、減点は何点か？

0.10 身体の部位の使用が不十分である。

2. 選手が身体の一部を積極的に使用し顔の表情もあった(減点なし)が、2つの“波動”がなかった場合、0.20の減点があるか？

はい、0.20の減点である。なぜなら最低2つの異なる身体波動(部分的または全身)が必要であるから。

3. 選手が1つの波動しか実施しなかった、0.20の減点は発生するか？

はい。

4. ボールの基礎技術である片手受け：選手が片手受けした直後に他の手で支持をした場合、基礎技術があったとして有効か（技術的欠点を伴って）？

はい

5. “演技終了時に音楽のリズムと動きのハーモニーがない” 選手が音楽終了前に明らかに動きが終了した場合：これは0.50と同じ減点か？

はい

6. 音楽に明らかにダイナミックな変化があるにも関わらず、選手がそれを尊重せずに動きを変化させなかった場合の評価は？

演技中において少なくとも1回は、はっきりとしたダイナミックな変化が必要である；なかった場合は0.30の減点がある。

7. 選手(または団体)のリボンに結び目がある場合、EAは芸術的構成のアイデア、つなぎ、リズムに対する芸術的構成のEA減点はどのようにするべきか？

芸術的審判は、技術的欠点から起こる構成のアイデアへの影響、つなぎに対する選手の実施力、リズムとの関連を評価する。すべての演技は、中断の有無や重大度によって異なる。選手は結び目ができた結果として演技の瞬間または一部に実施できない状況が起こった場合、審判員は採点規則と審判研修で説明された通りに減点しなければならない。

実施技術的欠点

1. “手支持での歩き(-0.30)”の減点が入るのは、どのような場合か？

- 手支持での歩き：ステップを伴って片手からもう片方へはっきりと支持を変更した場合、最低2歩

2. 手具が空中にある投げの下で“不正確な軌道、1歩（または2歩またはそれ以上）の移動を伴う受け”の技術的欠点として減点につながる“ステップ”とはどのようなものか？

- ステップが手具の落下を防ぐためのものだった場合（例：前方に非常に遠く、また逆方向など）減点される。
- ステップが構成として行われている（動きの特徴がある）場合は、減点なし。

3. 選手が手具の受けを待っている間、明らかにひじが曲がっていた場合これは“不正確な身体部位”の減点にあたるか？

はい。#6 技術的欠点を参照：不正確な身体部位：動作中の1部位の不正確な保持（そのつど）、身体要素中における足と/または膝の位置、肘の曲がり、肩の上り、なども含む。

4. 以下の場合どのような減点に当たるか：選手が不正確な軌道を伴って手具を投げ、3歩走ったが手具を落下した？

手具の落下は、手具を受けに行く際、踏んだ歩数によって減点すること（1.00）

5. 選手が不正確な軌道を伴って手具を投げ、3歩走ったが手具を落下し、手具を受けようとしたために転んだ場合の減点は？

1.00（上記を参照）にバランスを失い転ぶ（0.70）を加える＝1.7

6. リボンに結び目ができた場合、審判はどのようにその演技を評価するか？

3つの状況がある：

- 小さな結び目ができ演技の中断なく解いた。

TE 減点：結び目に対して 0.30

- 結び目ができ、選手が演技を止めて結び目を解いた後、演技を続行した。

TE 減点：結び目に対して 0.50

- 結び目が固く、選手は手具が使用できないと判断して予備手具を使用した。

TE 減点：使用不可能な手具として 0.70

GROUP 団体

D1-D2:

1. 最高9個のBD/ED：団体競技において9個を超える追加の難度は許可されるのか？

#1.7 難度の必須条件では、BD と ED の最低数（4個と4個）、合計最高9個、1個は選択によるとリストに記載されている。ED と BD は実施順にカウントされ（65 ページ、#7.1）、ED または BD は5個を超えてカウントしない。団体において5個を超えて実施した場合、これらの ED または BD は無効とし、また構成としては構成の統一性における芸術的減点が発生するリスクを伴い、技術的欠点も伴う可能性がある。

2. 団体演技において6個のBDと6個のEDがあった場合、減点はない；しかし審判は最初の難度、または最高の難度を評価すべきか？

有効または無効であったとしても、“実施順に” (#7.1)最初からの5個を評価。

3. 団体演技において7個のBDと2個のEDだった場合、4個より少ないEDの減点はあるか？

はい。4個より少ないEDの実施として減点がある-0.30 (#7.1)そして実施順の最高5個のBDのみが評価される。

4. 団体演技において9個のBDと0個のEDを、4個より少ないEDの実施の0.30を伴って実施することが可能か？

最高は9個の難度、最低4個のBDと4個のED（1つは選択）を伴って実施。団体が4個のEDに欠けるとして-0.30の減点を伴い0個のEDだったとしても#1.7の規定により5個のBDを超えることはできない。

5. BDがサブグループにて素早く連続的に実施された場合、減点はあるか？

#2.1.3にて各身体グループから最低1つずつ入れる3つのBDは、サブグループで実施することはできない。しかし、演技を異なるフォーメーションにて連続的に実施することはできる。その他の1つまたは2つのBDに対しては、#2.1.3に則った最低3つのBDがあればサブグループにて実施してもよい。

6. 1名の選手のバランスが1秒間の静止がなかった場合、BDは有効か？

個人競技と同様：BDは有効となり-0.30の技術的欠点がある。

7. #2.2.2によると：“選手間において大きな手具の投げ(ブーメランでなく)による交換のみがEDとして有効である。大きい投げは高さまたは選手間6mの距離が必要である”。5名の選手が6mの距離にて低い投げで交換したが、しかし2名のサブグループの選手が6m以下の距離にて行った。これは有効か？

いいえ。

8. 6mの距離の基準について：“距離：投げと/または受けの最中に交換する各そして全ての選手間に6mの距離があった場合(振付の一部として実施された場合)EDごとに1回有効。”(#2.2.6.3)。#2.2.6.3を明確に伝えてほしい。：交換する選手同士で6mの距離が必要。

9. 交換中選手たちが0.10のバランス難度で投げたが、1秒止まっていなかった：BDの基準はこの場合も有効か？

BDの基準では、形が認識できればそのBD(基準)は有効とするが、技術的欠点0.30も与える。

10. 0.3または0.5の不正確な軌道による減点を伴ったEDは有効か？

有効(59ページ#2.2.5参照)。

11. 6本のクラブと2つのフープの団体において、クラブのみで交換を行うことは可能か？

はい、EDの必須条件にあてはまっていれば良い。

12. #2.2.4に従って：団体演技において、ひとつの身体難度を実施しその後に同じBDを交換難度中の基準として実施、これは繰り返しとなり無効となるか？

これは繰り返しではない;交換でのBD(0.10)は基準としてのみであるため、演技中の交換以外でBDとして実施できる。

13. リボン5の団体演技について：ED中にリボンの結び目ができた場合、EDは有効か？

はい。60ページ、#2.2.5のEDが無効になる場合を参照のこと。

14. 交換難度について：基準の回転 $\circ$ ：180°または360°が必要か？

この基準は採点規則に180°と注意書きされているもの以外は常に360°が必要。

15. 交換中に前転を伴って受けた場合、“座位”“回転”の基準と他に可能性のある基準はあるか？

#2.2.6.3参照：床上の位置は、受けの際“選手は先に座位になり床上で移動しない”時に有効。

D3-D4

1. CC の最低 2 つの受け渡しは各選手かまたは団体としてか？

各選手ではなく、団体全体として連係中に最低 2 つの異なる受け渡しを行うこと。

2. CC：1 つ目の受け渡しが投げを伴った、そして 2 つ目が転がしを伴った。CC として有効か？

はい、中くらいか小さな投げだった場合のみ有効。

3. 団体において連係中に最低 2 つの受け渡しを実施（突き返し、転がし、など）したが、連係の最後に 1 名の選手がパートナーに大きな投げを実施した。CC として有効か？

いいえ。

4. #6.2.2 について：“5 名すべての選手が、直接的に/または手具に意味を持たせて関係していること”。例：3 名の選手が CRR を実施、他の 2 名の選手が CRR とは別に異なる連係を実施、この場合の連係は 5 名の選手が 1 つの連係に参加していないとして無効：“異なる連係”の意図することは何か？

- “異なる”という意味は 2 つあり、各々の連係が同時にサブグループにて実施、その“異なる”サブグループ間の何らかの関係があった場合のみ有効、この場合は最も低い価値で実施された連係が有効となる。
- 1 つの連係（例：CRR）を実施することも可能、2 つのサブグループに分け（関係なしで）、同じ動きの種類を伴い（回転、超える、など）互いが連係の主動作の定義に従って実施。例：[Click here](#)

5. 1 名の選手が CR にて視野外・手以外を実施、2 番目の選手が回転を実施したが手具の投げが回転後であった。これは CR、CR2 として有効かまたは無効か？

定義に従って実施されたもののみに与える。：この場合は CR として評価することが妥当である。

6. ジャンプまたは回転要素中に、2 つまたはそれ以上の手具を脚の下から異なる方向へ同時に投げる：これは視野外として有効か？

はい。

7. 手具の上を超える場合、手具は単に床上に置かれてはならず、最低でも膝の位置まで上げなければならない。これは床上にて動いている手具にも必要か？

床上で動いている手具には必要ない。

8. 床上に手具が置かれていた場合、その連係は有効か？

無効

9. #6.3 の注意書きについての質問、連係の一覧： 注意：最低 3 本のクラブの投げ、または最低 1 本のクラブ（ジョイントされた 2 本のクラブ）+1 つの追加手具を投げること：これはジョイントされた 2 本のクラブの注意なのか、それとも他の手具の例えば 2 本のロープを“ジョイントした”という場合の注意なのか？これはジョイントされた 2 本のクラブのみの注意であり、2 本のジョイントしたクラブとそして他の手具を投げなければならない（何故なら、2 本のジョイントしたクラブは 1 つの手具と同様であるから）

10. CR と CRR は#6.4 の CRRR に明記されたように“中くらいまたは大きい投げ”で実施できるのか。

はい。これらの連係は個人競技の R と同じ原則に従うこと（小さな投げは不可）。

11. 上記に引き続き、もし CR と CRR が小さな投げだったら有効か？

いいえ。

12. CC の連係中に、6m の距離の水平の投げは可能か？

#6.3：CC は小さなまたは中くらいの投げを伴って実施することが可能である。水平での投げが小さいまたは中くらいの高さ(#3.4 投げの高さを参照)の場合、有効となる。距離は連係における投げの高さを測る定義ではない。6 m の距離は、交換における大きな投げの定義である。

13. これらの連係において要求される投げの高さはどれくらいか：CC、、CR、CRR？

小さい、中くらい、と大きな投げに要求される高さは#3.4 に定義されている。高さは手具が離されたところから測る。

a) #6.3 参照

a. CC：小さいまたは中くらい

b. ：中くらいまたは大きい

b) #6.4 参照：この連係のグループは CRRR に求められている中くらいまたは大きい投げと同じ高さが要求される。

a. CR, CRR：中くらいまたは大きい

14. 結び目が出来た場合、関係は有効か？

#6.5 は重大な欠点と関係を無効にする一覧である；結び目はこれらの一覧に含まれておらず、関係のその他の必須条件を満たしていれば有効となる。

実施芸術的欠点

1. 共同作業の種類欠如に対する減点がないという解釈は正しいか？以前の減点表：“共同作業が1つまたはそれ以上欠けている”。この意味は、各構成に最低1つの共同作業は必要ないということか？

異なる関係の種類の間でのバランスを必要とする。

または“1つの種類の乱用...”の減点を与える場合の意味は、1つの種類が欠如した場合に与えるのか？

1つの種類が欠けたことへの減点はなく、バランスが必要であることが記載されているのみである。演技の大部分において1つの種類しかない場合、“1つの種類の乱用...”の減点となる。

2. もし“混成曲”または音楽のいくつもの断片をミックスした音楽だった場合、これらは“アイディア”が不明であり、どのようにしてこれらの異なった断片がひとつのアイディアのガイドとして調和するのか、統一性の減点はどのようにするのか？

#4.1.1e を参照、個人競技と団体競技に有効：“音楽の特徴の変化は動きの特徴の変化に反映しなければならない；これらの変化は調和して結合されなければならない。”もし特徴の変化がeを尊重していない場合、統一性/特徴の減点は一覧表の過失の度合いに従って与えられる。

3. 演技中どの時点においても、もし1名または数名の選手が4秒を超えて手具なしの状態であった時、0.30の減点があるか？

はい：#5 “開始時または演技中、1名または数名の選手が4秒を超えて手具なしの状態である”（0.30）。

4. 選手が同時性を欠いた場合、これは“リズム”の減点となるか？

もし1名または数名の選手が明らかにリズム/アクセントを失った結果同時性を欠いた場合のみ、これは“リズム”の減点になる。

技術的实施減点

1. 個人選手に対する全ての減点、“基礎技術”は、団体競技にも適用されるか？

#6 からの減点はミスをした選手数に関係なくそのつど減点される（一括減点）。

0.10
不完全な動きまたはジャンプ、バランス、ローテーションにおいて形の大きさに欠ける
投げを伴わない移動：身体 の位置を整える

0.10	0.30	0.50 またはそれ以上
バランスを失う：移動なしで余分な動きを入れる	バランスを失う：移動して余分な動きを入れる	バランスを失い、片手または両手で、または手具で支える
		完全にバランスを失い転ぶ： 0.70

2. 手具の喪失においては、審判は一番大きな落下に対して団体全体に1つの減点のみを与えることは明確である。不正確な軌道または不完全な形に関しては、同じ記載がない。これらの欠点を伴って、数名の選手が異なるミスをした。審判は、手具の喪失と同じ減点を与えるのか？

はい。なぜならこれらは一括減点であって、選手の数に関係なく1度のみ減点を与えることなので、最も大きな減点となりうる欠点を減点することになる。

3. リープ難度：1名の選手が20°以上の誤差（0.5）を伴う不正確な形、他の選手が15°の誤差（0.3）を伴う不正確な形で実施した場合、リープ難度に対する減点は0.5または0.8のどちらか？

いいえ、0.50の減点のみ。

4. 交換：2名の選手がそれぞれに3歩の移動を伴って手具を落下した。減点の合計は1.0か？

はい。

5. 交換：1名の選手が3歩の移動を伴う手具の喪失（1.0）、他の選手が3歩の移動を伴う不正確な軌道（0.5）を伴って受けた。減点の合計は1.0か1.5か？

はい-1.50。これらは異なる減点で異なるミスである。

6. 2つの手具を同じ要素中に連続的に落下、審判は1度のみの減点か？例：CRR2において素早い連続にて2つの受けを実施

各落下に対して減点、同時に落下していないから。

7. 2つの手具を異なる要素中に落下、しかし1つの手具の落下の原因が他の手具が落下したことにあつた場合、1度のみの減点か？

そのつど減点、なぜなら同時に落下していないから。